

2017年 百里初午祭 アピール (案)

2017年は、日本国憲法施行70年を迎えます。しかし、安倍首相は、「次なる70年を見据えながら、未来に向かって新しい国づくりを進める」「改憲はどの条項を改正すべきという現実的段階に移ってきた」と発言し、これまでのなし崩し改憲から明文改憲を狙っています。そのなかで、今国会では現代の治安維持法と言われる「共謀罪」の成立を目論んでおり、この危険な法案の成立を阻止し、廃案にしなければなりません。

暴走する安倍政権は、弾道ミサイル防衛関連経費の一部1706億円の前倒し計上など、防衛費の膨張への歯止めなき増額を行い、戦争する国づくりを推し進めており、許すことはできません。

アメリカのトランプ新政権発足後、初の閣僚来日となったマティス国防長官と安倍首相、稲田防衛相が会談し、「日米同盟の一層の強化」方針を確認し、辺野古が唯一とする根拠が全く説明されないまま、辺野古新基地建設を「唯一の解決策」とする認識を示したことは、沖縄では県民が選挙ごとに民意を示している「新基地建設NO!」の意思を無視し、憲法に保障された地方自治を無視し、民主主義を真っ向から否定する安倍政権のやり方は、沖縄だけでなく日本全体の民主主義の問題であります。

こうしたなか、2月6日には沖縄防衛局は、辺野古新基地建設に向けた海上での埋め立て本体工事を強行する暴挙を行っており、私たちは断固抗議の意を表明します。

沖縄でオスプレイ墜落事故の真相究明もされないなかで、今年は東京の横田基地にオスプレイの配備強行を行おうとしています。オスプレイは青森の三沢基地で爆撃や射撃訓練を行い、横田から三沢への移動で茨城の上空を飛ぶ可能性に加え、百里基地でも横田基地に配備されたオスプレイの飛来する可能性も懸念されます。県民の安全が脅かされる「危険なオスプレイは県民の頭の上を飛ぶな」の声を大きくし、声を上げていかななくてはなりません。

百里基地では、今後、最新鋭戦闘機であるF35部隊の配備すらも可能性があります。百里基地反対の声をさらに強めることが必要です。

いっぼうこの暴走をくい止め、平和と憲法を守る市民のたたかいが、沖縄でも全国でも新たに発展しています。

私たちは、国民の声を無視し「戦争する国づくり」に邁進する安倍政権を、多くの市民と連帯した力で追い詰めていきましょう。労働者、市民、草の根の力で、地域から全県に、そして全国の仲間と連帯した運動を進め、安倍政権を退陣に追い込みましょう。

以上アピールします。

2017年2月11日

百里初午祭 参加者一同